

現代映画のイメージ調査による地下空間設計への手がかり

名古屋大学工学部建築学科 学生会員 ○上野 尻 竜彦
 名古屋大学大学院工学研究科教授 フェロー 西 淳二
 名古屋大学大学院工学研究科助手 正会員 清木 隆文

< 1. 研究の背景と目的 >

近年、過密化する地上よりも、異空間性など様々な特性を持つ地下への関心が高まり、様々な用途の地下空間が建設されている。そこで本論文は地下空間利用者の心理面に着目し、研究方法としては空間をリアルに表現するメディアの代表である現代映画を題材として、そこに出てくる地下シーンにおける活動とその空間表現の関連性から現代の人々が地下空間をどのようにイメージしているかを明らかにし、現実空間と照らし合わせて様々な用途に合わせた心理的演出に役立てようとするものである。

< 2. 地下シーンの施設区分 >

1980年代以降の現代洋画の中から地下シーンを含むもの25本(30シーン)を調査対象として扱うことにした。

地下シーンを種別で区別すると、(1)地下都市 (2)地下洞窟 (3)トンネル (4)地下基地 (5)地下街 (6)地下鉄 (7)地下室(倉庫、バー、アトリエ) (8)地下牢 (9)地下道(下水道、地下通路) の9種類ピックアップすることができた。(表-1参照)

表-1 地下シーンに出てくる施設の種別

施設の種別	映画タイトル(製作年、上映時間)
(1)地下都市	エイリアン2(1986、137mins) エイリアン3(1992、115mins)
(2)地下洞窟	イングリッシュ ペイシェント(1996、162mins) スターシップ トゥルーパーズ(1997、129mins) トータル リコール①(1990、113mins)
(3)トンネル	デイルイト(1996、114mins) マネートレイン(1995、109mins)
(4)地下基地(軍事司令部)	トータル リコール②(1990、113mins) メン イン ブラック(1997、97mins)
(5)地下街	サブウェイ(1984、104mins) トータル リコール③(1990、113mins)
(6)地下鉄	ゴースト(1990、127mins) ジャッカルの心(1997、125mins) スピード(1994、116mins) ダイハード3①(1995、129mins)
(7)地下室(倉庫、バー、アトリエ)	アルビノ アリゲーター(1996、97mins) シンドラーのリスト①(1993、195mins) ニル バイ マウス(1997、119mins) ディアボロス(1997、150mins) ドーベルマン(1997、110mins) バスキア(1996、107mins) マルコムX(1993、201mins)
(8)地下牢	アミスタッド(1997、155mins) 告発(1994、123mins) ロック(1996、137mins)
(9)地下道(下水道、地下通路)	ショーシャンクの空に(1994、143mins) シンドラーのリスト②(1993、195mins) ダイハード1(1989、133mins) ダイハード3②(1995、129mins) ロック(1996、137mins)

(注) 映画タイトルの後の番号①②③は同じ映画でも複数の地下シーンを含むものを区別するためである。

＜3. 地下空間のイメージ＞

いくつかの地下イメージをあげ、地下シーンの状況を分類すると下記のように(a)～(f)の6つのイメージで表現されていることがわかった。

(a)危険な空間イメージ

犯罪者や危険な生命体が生息し活動するあるいは犯罪の匂いがする空間で、パニック発生時逃げにくくなりがちである。

恐ろしいエイリアンが人を襲う(エイリアン2.3)、麻薬中毒者が酒を楽しむ(ニル バイ マウス)、巨大人食い生命体が生息(スターシップ トゥルーパーズ)、人を殺す前に銃の手入れをする(マルコムX)、人質を取り犯人が立てこもる(アルビノ アリゲーター・ジャッカル)、大事故でトンネル内に閉じ込められる(デイルイト)、刑務所副所長が囚人に非人道的処罰をする(告発)のようなシーンがある。

(b)(危険な)物(人)を入れる(閉じ込める)空間イメージ

善悪は入れる(閉じ込める)物によって左右される。

自由のため白人を殺した黒人奴隷たちが入れられる(アミスタッド)、ユダヤ人女性を監禁する(シンドラーのリスト①)、腕利きスパイを監禁する(ロック①)、ミュータントたちを地下に追いやる(トータル リコール③)のようなシーンがある。

(c)逃げる・隠れる(人目につかない)空間イメージ(自由を求める)

善悪は入る人によって左右され、逆に追いつめられる場合もある。

自由になろうと逃げる(ショーシャンクの空に・シンドラーのリスト②)、犯罪者が逃げる(スピード・ダイハード1.3・ドーベルマン・アルビノ アリゲーター・ジャッカル)、自由になるため入る(サブウェイ)、テロ集団に見つからないよう軍のチームが潜入する(ロック②)のようなシーンがある。

(d)地上に代わる居住空間イメージ

近未来の空想的なものと何らかの理由で地上では住めず何かを求め地下に住む2通りある。

他惑星の地上の環境では人が住めず地下に住む(エイリアン3・トータル リコール)、地下愛好者たちが地下に住む(サブウェイ)のようなシーンがある。

(e)秘密・神秘的空間イメージ

秘密基地がある(メン イン ブラック)、ゲリラ軍の司令部がある(トータル リコール②)、惑星の環境を変えるほどの巨大装置がある(トータル リコール①)、アフリカ系黒人が宗教的儀式を行う(ディアボロス)、幽霊が出る(ゴースト)のようなシーンがある。

(f)自分だけの空間イメージ

アトリエとして使う(バスキア)、不倫関係の2人が逃げ込み愛し合う(イングリッシュ ペイシェント)のようなシーンがある。

＜4. まとめと今後の課題＞

本研究において地下のイメージを6種類あげたが、全体として善と悪ならば悪のイメージの方が表現されているように見られるが、それは使う側の人によるものであり一概には言えない。

一方(e)や(f)などの地下の特性でもあるイメージは、現実にもあるようにアトリエや教会などの心理的演出に役立ちそうである。また(d)のように地上に代わる居住空間としての地下は今後未来に向けて開発されていくことだろう。

今後の課題としてはイメージ分析をより深く、説得力のあるものとし、それと空間表現(光、材質、広さ)との関連性を明らかにして、現実空間に役立つ心理的演出の手がかりを導きたいと思う。

〔参考文献〕

シネマハンドブック(洋画篇)1998：発行 カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社